

# 「みやざき家庭教育サポートプログラム」の活用にあたって

## 1 プログラムの概要

### (1) プログラムの特徴

本プログラムは、参加体験型学習の様々な手法を用いて、参加者同士が交流しながら、ともに活動することを通して、親としての役割や子どもとのかかわり方、地域の親子の支援の仕方についての気づきを促すことをねらいとしています。

幼児から中学生の子どもをもつ親、将来の親世代（中学生・高校生・青年等）、祖父母・シニア世代、地域住民を対象とした学習機会（研修・講座・懇談会等）に活用できます。

参加体験型学習	参加者が受け手や聞き手として参加するだけでなく、参加者同士が積極的に交流しながら、ともに活動することで、自らの気づきや行動変容を促すことを目的とした学習方法のこと。
ファシリテーター	参加者の積極的な参加を促し、参加者相互のコミュニケーションが円滑に行われる環境をつくるために、「司会者」「支援者」「役割演技役」などの複数の役割を演じる進行役のこと。

- 保育所職員、幼稚園、小・中学校等の教職員や公民館職員、子育て支援センター職員等がファシリテーター（進行役）となり、活用できるように作成しています。
- ファシリテーター（進行役）は、1人または2人で進行します。
- 一つの学習プログラムは「進行表」「ワークシート」で構成しています。
- 各プログラムに要する時間は60分で設定していますが、2つある活動のうち1つを選択したり、アイスブレイキングや活動の時間を変更したりすることで、柔軟な活用が考えられます。
- まとめの段階に、読み聞かせやブックトークを位置づけていますが、参加者から感想を聞いて終わるなどの展開も考えられます。
- 導入のアイスブレイキング、活動の場面設定、まとめの絵本や情報誌等は、あくまでも例示ですので、ファシリテーター（進行役）の思いや考えで柔軟にプログラムを変更してもかまいません。

## (2) プログラムの進め方

すべてのプログラムは、「導入（アイスブレイキング）→展開（アクティビティ）→まとめ（振り返り、読み聞かせ・ブックトーク）」の流れで構成しており、ファシリテーター（進行役）と参加者が一体となって学習ができるようにしています。

① 導入 (アイスブレイキング)	簡単なゲームなどで雰囲気を和らげ、初対面の参加者の緊張を解きほぐすことを「氷を砕く」という意味で「アイスブレイキング」と呼んでいます。 プログラムの中で取り上げているのは、あくまで例であり、参加者の実態やワークショップのねらいに応じて、アレンジしてください。
② 展開 (アクティビティ)	講義など一方的な知識の伝達スタイルではなく、グループで意見交換や共同作業を行いながら進める学習の形態です。プログラムのワークショップについては、「進行マニュアル」をもとに進めていくことができます。
③ まとめ (振り返り、読み聞かせ・ブックトーク)	ワークショップで気づいたことを個人で振り返り、これまでの自分を見つめ直す時間です。 また、テーマにあった絵本や情報誌等の読み聞かせ、ブックトークを聞いて、活動への意欲をもつことで学習のまとめとします。

### <参加者同士の3つの約束>

プログラムの冒頭で、次の3つの約束を確認します。

- ① 「一人一人が主役です」  
参加者はみんな平等です。一人で話しすぎないようにしましょう。
- ② 「お互いの意見を尊重しましょう」  
お互いの考えや感じ方を尊重し、耳を傾けましょう。相手を否定することは言わないようにしましょう。
- ③ 「ここだけの話にします」  
話し合いの中で知った個人情報、持ち帰らないようにしましょう。